

# 明日香養護学校の校舎改築と文化財遺構の保存について

平成27年 2月12日  
学校支援課・学校教育課・文化財保存課

## 1. 校舎改築工事概要

(1) 既存校舎 (S41. 3建築 鉄筋コンクリート造 平屋建て 442㎡)

・ H19 耐震診断調査において、コンクリート強度不足判明

↓

耐震補強では、必要な耐震性能の確保が困難

↓

改築工事計画

(2) 改築校舎 (鉄筋コンクリート造 平屋建て 442㎡)

・ H24 改築設計

・ H25 耐力度調査 (国庫補助申請のため)

・ H26～27 改築工事実施 (工期 H26. 7. 8～H27. 8. 7)

★改築費用＝約202百万円 (当初契約額)

※文化財発掘調査期間 : 当初 H26. 11. 10～H27. 1. 9  
遺構発見により、現在も工事中断中

## 2. 検出した遺構の概要及び今後の調査計画

(1) 検出した遺構の概要 … 別紙のとおり

(2) 価値付けを行うための調査

・ 遺構の範囲確認のための発掘調査 … 平成26年度～31年度  
(学校敷地内、南側民有地におけるレーダー探査・試掘)

(3) 上記(2)の結果、保存整備が必要となった場合のスケジュール

・ 文化財保護法に基づく史跡指定作業 … 平成32年度～34年度

・ 史跡公有化・整備構想策定作業 … 平成35年度～37年度

・ 史跡整備 … 平成38年度以降

### 3. 明日香養護学校の現状

#### (1) 在籍児童・生徒（H27. 1月現在）

- ・肢体不自由者（66名） … 補装具の使用によっても歩行や筆記等日常生活における基本動作が不可能又は困難
- ・病弱者（4名） … 全員何らかの精神疾患があり、今後学年進行で人数増加

#### (2) 校舎利用の現状

- ・肢体不自由者は全員車いすを使用（大半がリクライニング式の大型のため広いスペースが必要）しているため、校舎の構造は管理棟を除いて全て平屋建てで各棟間の距離は短く、各棟は屋根付きの渡り廊下で繋がっている。
  - 敷地内の別の離れた場所（例えば運動場）への新校舎移築は困難
- ・近年の在籍者は、複数の障害を持ち重度化傾向にあり、約半数が常時の医療的ケアを要するため、教室環境の整備が早急に必要である。
  - 現存の校舎のみで特別支援教育の継続は困難
    - ・解体校舎にあった普通教室 → 現存校舎の特別教室を転用
    - ・解体校舎にあった音楽室や家庭科室での授業 → 各普通教室で実施
  - 現在、教室数が不足し本来の授業が行えず、学習に支障を来している。

### 4. 新校舎建設と文化財遺構の保存についての検討(案)

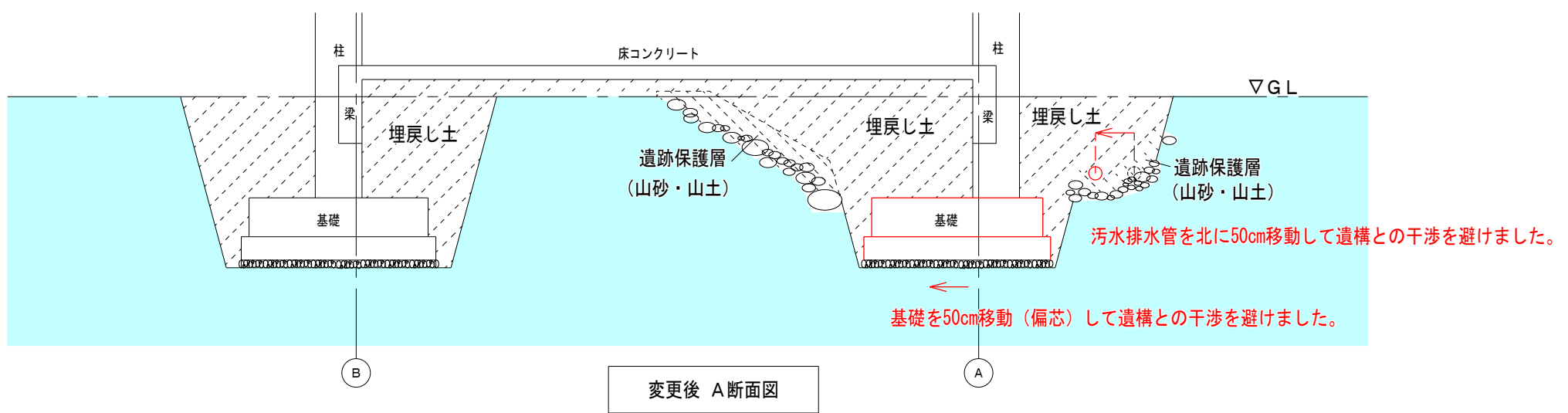
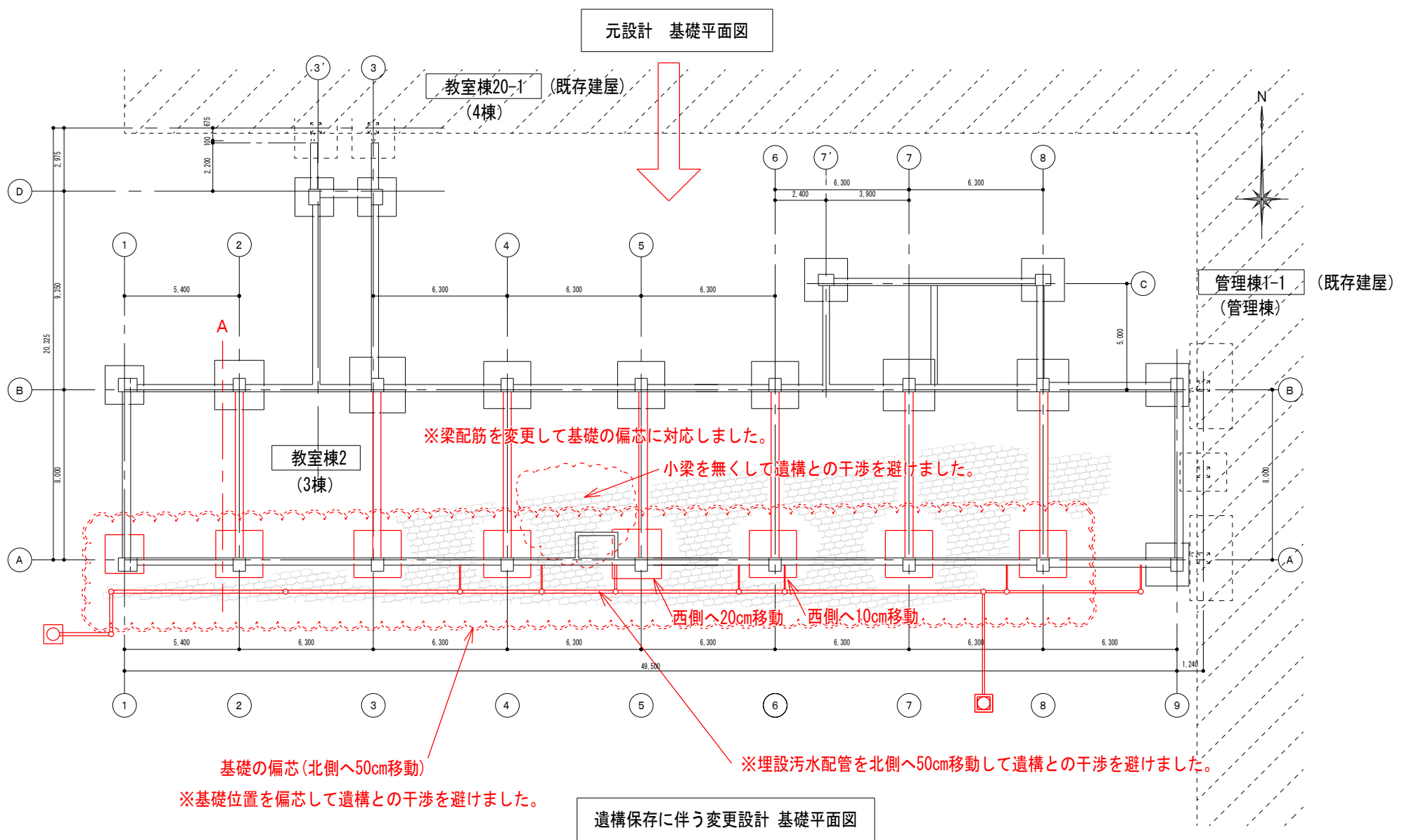
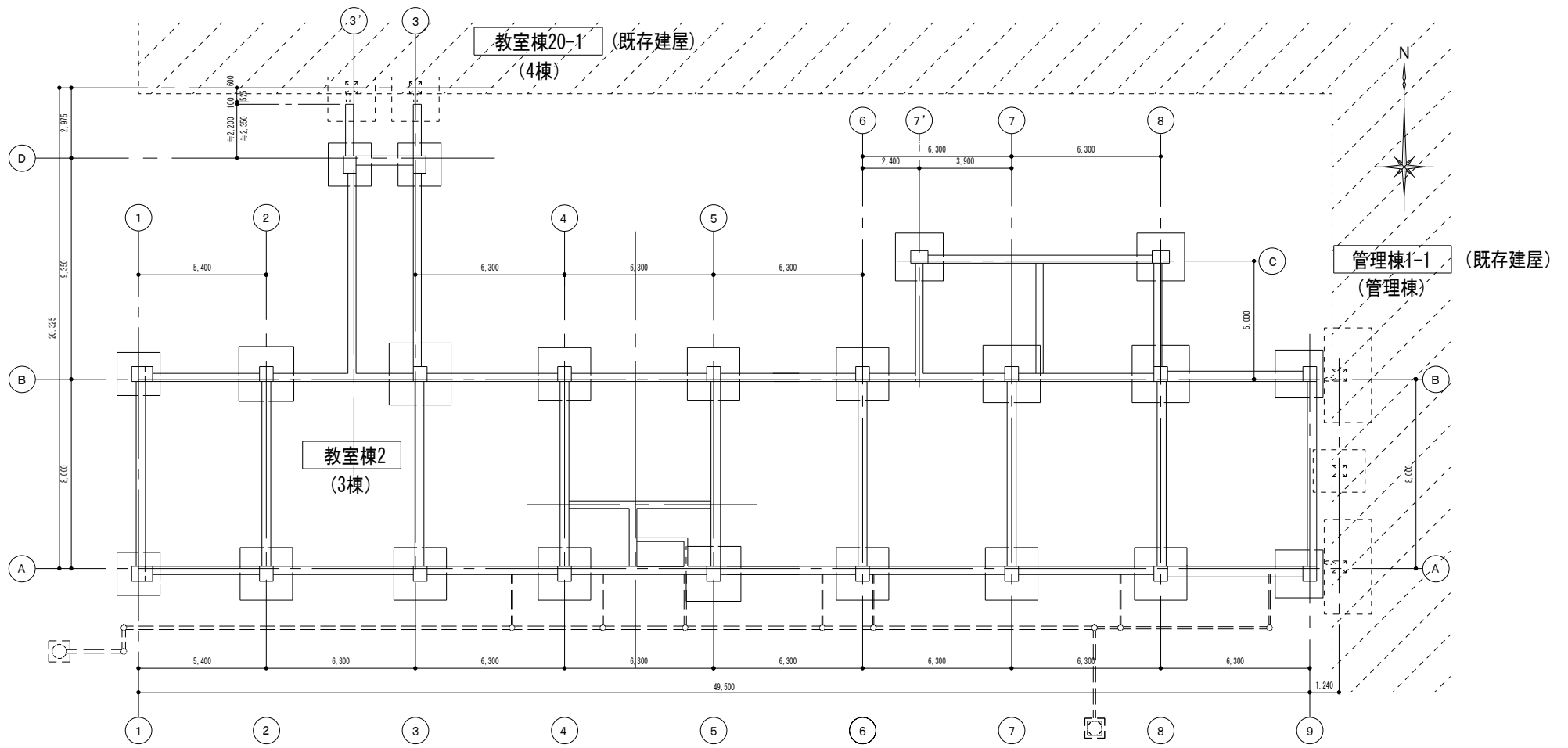
#### 新校舎建設後、将来的に学校移転を検討

##### ○設計の見直しにより新校舎を建設

- ・新校舎の基礎部分を北側へ50cm移動（西側にも一部移動）させることにより、遺構との干渉を避けることが可能となるため校舎建設を継続する。

##### ○将来的に学校移転も検討

- ・文化財の発掘調査結果により、将来的に学校移転も検討する。



## 小山田遺跡（明日香養護学校から検出した遺構）の概要と性格

### (1) 遺構の概要

平成26年11月10日から、県立明日香養護学校教室棟改築事業に伴い、橿原考古学研究所が発掘調査を実施

《規模》調査区の南側で、敷石・石積を伴う東西方向の掘り割り遺構を、48mにわたり検出。

《形状》断面が逆台形をなし、底面の幅3.9m、残存高1.0m。  
底面と北側斜面には自然石を敷き、南側斜面は板状の石を階段状に積み重ねている。

《年代》出土遺物や遺構の形状から、遺構の年代は飛鳥時代（7世紀）の中頃と考えられる。

### (2) 遺構の性格

- ・過去の地形図と対照すると、一辺80m程度の方形区画の北辺を画する堀と考えられる。
- ・遺構の性格として、以下のようなものが想定される。

#### ①大規模な方墳（飛鳥時代最大級）

ア) 舒明天皇（在位629～641）が最初に葬られたの滑谷崗（墳丘）<sup>なめはざまのおか</sup>にもちいられている石材の種類や積み方が舒明天皇陵と共通性がある）

イ) 蘇我蝦夷・入鹿父子（?～645）の「双墓」<sup>ならびはか</sup>のうち、蝦夷の墓（史跡菖蒲池古墳が隣接。日本書紀に「双墓」を造営した記述がある）

#### ②居館跡

- ※ 平成27年1月15日 橿原考古学研究所で記者会見  
1月16日 各紙朝刊の一面で報道  
1月18日 現地説明会 約8,000人が見学